

NO.7

2024年6月

長野反核医療者の会 会報



目次

第3回定期総会報告

ヒバクシャの願いをつなぐプロジェクト
映画「サイレントフォールアウト」共催

第3回定期総会を行いました！

4月29日に、第3回定期総会を行いました。記念講演として、猿田佐世さん(新外交イニシアティブ (ND) 代表、弁護士)をお呼びしました。「抑止力を乗り越えて 平和のために市民社会ができること」のテーマで、日本を取り巻く国際情勢や、市民ができる外交についてお話しいただきました。参加した会員の報告、感想を共有します。



猿田佐世さん

私は猿田さんのお話を聞くまで、外交は各国の政治家同士が行うもので一般市民は関係ないものと思っていました。今回の講演を通して、様々な形で私達も外交に携わることが分かり前向きな気持ちになりました。また、台湾有事に関してはどこか他人事だったのですが、台湾で何かあれば日本も戦場になるということを知り、恐怖で一杯になりました。政府が行っている軍事力の面での中国に向けた無謀な対抗や、Jアラートの訓練も戦時中の竹やり訓練のようなものというのを知りあきれることしかできませんでした。様々なお話をして頂きましたが、一番印象的だったのは、「平和のために大事なものは武力ではなく外交」ということでした。外交を深めていくことは、環境問題や多様な性も含めた人権問題など諸問題の解決にも繋がっていくのだと感じました。また、東南アジアの「どちらの国にもつかない (Don't make us choose)」という姿勢が大国アメリカの脅威になっているというのも驚きでした。莫大な防衛費をかけて軍事力を強化するのではなく、平和に向けてぜひ日本政府にもこのような姿勢をとってほしいと思いました。この数年、日本がどんどん戦争に向かっていっているような危うさを感じます。絶対に戦争を起こさないために、自分が身近で出来る外交はどのようなことか、これを機にぜひ考えてみようと思いました。

参加者の感想文からは、「外交は偉い人の人たちだけのものではないと知った。市民レベル、個人レベルでできることを、多くの人と語り合っていきたい」「草の根の運動の大切さを伝えていただき、勇気と確信が持てた」といった言葉が寄せられました。



分散討論で思いを交流

分散討論会では3つのグループに分かれ講演の感想交流や、今回の講演を通して感じたこと・考えたことなどの意見交流を行いました。私のグループでは「外交が個人単位でもできることを知った」「戦争をすることで生じるデメリットを作ることによって戦争をしないということにつながる」「選挙で力強い言葉を使えば使うほど通りやすいと感じている。そういうシステムのようなものがあるのか、学んでみたい」「シンガポールの首相がNOを言えたのは世論の影響なのか？一方で多数の意見があっても政府が発言しないこともある。国の代表が意見を言えるようになるためにはどうすれば良いのか。」などの感想・意見が挙がりました。

分散討論会後、全体共有の時間があり他のグループから出た感想や意見は「軍事でない外交の可能性を感じた」「外交は大臣の活動というイメージだったが、自分たちで活動するものだを知った」「松代大本営でガイドをしている。日本は強制連行を無視している」「同じ職場の方と現地に行き加害の歴史を学んだ」「組合でイスラエルガザの記事を発信してきた」「石垣島では身近な話題。意見が違えばすぐ分断になってしまう」「米議員でも安保3文書知らない人もいる。知って広めることが活動の基本なのでは」「核兵器の活動を止めたい人には発信できるが、反対や保留の人にも意見を届けられるかが大事」といった様々な意見が挙げられました。



オンライン参加者ともZOOMで交流

第3期のアクションプラン

第2期(2023年度)の活動報告、会計報告と、第3期(2024年度)のアクションプランについて提示しました。アクションプランは、前期に加えて、「ヒバクシャの願いをつなぐプロジェクトへの参加」(次ページに詳細)、「2世+αで繋がる」「証言聞き取りの安全性について学ぶ」「地方議会からの平和の発信を求める」などの取り組みを行いたいと思っています。

参加者からは、「“楽しく”がキーワードの会、とても好きです」「おはなし会に参加できていないので、今年は参加したいです！」と言った言葉が寄せられました。

アクションプランについてのご提案やご意見などありましたら、ぜひ事務局にお寄せください！



私たちのアクションプラン 2024

長野反核医療者の会

ヒバクシャと繋がるPROJECT

- ヒバクシャの願いをつなぐプロジェクトへの参加**
県内の被ばく者の方への聞き取りの取り組みが立ち上がりました。長野反核医療者の会も全面的に協力します。
- 黒い雨体験者申請サポート**
長野県内で、「黒い雨」について患者さんの相談に乗れる体制を整えます。
- 2世+αで繋がる**
被爆の経験を継承していきたい人たちに、すそ野広くつながりたい。
- 証言聞き取りの安全性について学ぶ**
証言を消費しないときどき。

会員同士つながるPROJECT

- 反核メンバーのおはなし会**
定期的にオンラインの読書会を開催します。手ぶらで参加できます！
- 会報を読む**

地域とつながるPROJECT

- 信州大学人の会シンポジウムへの企画提出**
- 県内の反核平和団体との連携**
United we Stand!!
みんなで平和を作ります。
- 地方議会からの平和の発信を求める**
メンバーがいる市町村の選挙で、公開質問状を出します。

学び続ける

- 会の学習・交流企画に参加する**
会員が学びたいことを学べる会に！
- 他県・全国の反核医師の会の企画に参加する**
- ICANなど世界の情報を得る**
世界を知ると足元も明るくなる！
- 核兵器×〇〇**
ジェンダー、気候危機、人種、基地etc...
いろんなジャンルと手を結んで学びます

ヒバクシャの願いをつなぐプロジェクト

核兵器禁止条約をひろげる長野ネットに参加する若手有志の活動として、「ヒバクシャの願いをつなぐプロジェクト」が始まりました！目的は、①長野県内の被爆者に、戦争を知らない世代がその体験と願いを聞き取り、記録として残すこと、②これまでのヒバクシャ運動を未来につなぎ、県内に広げること。5月に、県内の被爆者4名の聞き取りを行い、長野反核医療者の会メンバーも参加しました。参加した医学生の感想を共有します。

松本市で前座明司さん(被曝二世)を訪ね、父の良明さんの被曝体験と被爆者運動のこれまでについてお話をお聞きしました。広島で原爆被害に遭い、松本になんとかたどり着いた良明さん。広島での被害の様子は聞いていて非常に生々しく、当時の悲惨さが伝わってくるようでした。松本にたどり着いた後も良明さんの「体がだるい」という言葉に対して周囲が悪口を言うようなことがあったと聞いて被曝の影響はその後の生活まで脅かしてしまうのだと改めて感じました。

私が前座さんのお話の中で印象に残ったのは「今日の聞き手は明日の語り手」という言葉です。前座さんは、被曝体験のことを一人でも多くの人に伝えてほしいという思いで仰ってくださったのだと思います。しかし、明日の語り手とは言っても、今の私たちは前座さんのような当時の状況を詳しく知っている立場ではなく、被曝の事実を間接的にしか知ることのできない立場です。なので、私たちには前座さんとは少し役割の異なる立ち位置にいるのだと思います。私たちには聞いたことをただ伝える役割に加えて、だんだん薄れつつある戦争への危機感や恐ろしさを同世代、次世代の人と再確認し、戦争はしてはならないものだということを周りに訴えてこの思いをつなげていく、そして少しでも大きくしていく役割があると感じました。今回聞いた話を自分の中だけに留まらせることなく、他の方の話も合わせながら別の機会でも活かしていきたいです。



「サイレントフォールアウト」

上映会に共催しました



3月16日、松本市で行われた映画「放射線を浴びたX年後III サイレント・フォールアウト」の上映会に、長野反核医療者の会も賛同団体として共催しました。1951年にアメリカ大陸ネバダの核実験場で行われた大気圏内核実験による放射能汚染、それを実証しようとした女性たちを追ったドキュメンタリー映画です。上映会には監督の伊東英朗さんも駆けつけました。伊東さんは、「一番伝えたかったのは当事者意識。アメリカ国内の上映会では、『皆さんは被爆者』と伝えている」と話しました。長野反核医療者の会のメンバーも発言の機会をいただき、「アメリカ本土がこんなに放射能汚染されているということを初めて知った。11月に核兵器禁止条約の締約国会議に参加し、ニューヨークの街中でアメリカの人々に『日本の被爆者の経験を繰り返さないために、核兵器をなくしましょう』と訴えてきたが、それだけでなく『あなたたちも放射能汚染されているんです』と伝えないといけなかった」と発言しました。この映画は、アメリカ国内の多くの地域で上映することを目標としており、日本国内での上映会を通して資金集めをしているそうです。世界中の人々に放射能汚染の現実を伝えるために、映画をひろげる取り組みを応援していきたいです。